



お母様とクリスマスをお祝い

愛の手を

バプテスト心身障害児(者)を守る会

第198号

発行責任者
社会福祉法人 バプテスト心身
障害児(者)を守る会
重症心身障害施設 久山療育園
重症児者医療療育センター
理事長 宮崎 信義
編集責任者 中村 晴光
福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
☎(092)976-2281
FAX (092)976-2172

新年のご挨拶 「重症心身障害児・者と共に」

理事長 宮崎 信義

に生きる」ことが大切なのだと思います。

また2011年3月の東日本大震災以降、地球温暖化や地殻変動の影響も懸念され、2019年も10月13日に台風19号が伊豆半島に上陸し、猛威を振るいました。年頭に当たって明るい話題をと思いましたが、それは私たちの心のあり様や生き方にかかってきているのだと思います。

久山療育園重症児者医療療育センターでは、昨年の11月8日(金)に第3回運営協議会(年1回開催)が、「重症児者施設の今後の役割を考える」さらなる在宅支援体制の構築に向けてを主題として40名(運営協議会委員10名、理事9名、監事1名、評議員8名、管理職12名)が参加して、発題・提言・協議が行われました。そこで改めて「設立理念」の実践・施設運営・在宅支援の働きが報告され、運営協議会委員からの貴重な提言が次のようになされました。提言1・「ノーマライゼーションの先にあるもの」(福田靖運営協議会委員)、

提言2・「重症児者が寄り添う社会」(平良憲誠評議員)。

いずれもセンター内部では見逃されがちな指摘がなされました。

社会や制度の動向については、2019年9月に厚生労働省が公表した「人口減で病床削減、公立・公的病院の再編統合の検討(厚生労働省)」。人口減が進み病床数の削減が必要と判断。九州では「検討」とされた件は50病院・施設(うち重症心身障害施設や重症病棟を有する4病院)。また「急性期」と「高度急性期」の病床は20万床を減少させる必要ありと試算されています。

2019年11月14・15日(木・金曜日)に開催された第40回西日本重症心身障害施設協議会で行われた行政説明では、①障害者数総数1963.5万人(人口の約7.6%)で障害者数(全体、在宅・通所)は増加傾向にあること。②医療的ケア児が増加(特に0・4歳児)している。③人工呼吸管理の児が増えていること等です。そして以下のことが強調されました。(次ページへ続く)

1. 障害者の重度化・高齢化を踏まえた地域移行・地域生活の支援：①重度の障害者への支援を可能とするグループホームの新たな類型を創設。②一人暮らしの障害者の理解力、生活力等を補うための支援を行う新サービス。③地域生活支援拠点等の機能強化。④共生型サービスの基準・報酬の設定。

2. 医療的ケア児への対応等：①人工呼吸器等の使用や、たん吸引などの医療的ケアが必要な障害児が、必要な支援を受けられるよう、看護職員の配置を評価する加算を創設。②障害児の通所サービスについて、利用者の状態や事業所のサービス提供時間に応じた評価を行う。③障害児の居宅を訪問して発達支援を行う新サービス（前回の法改正に伴うもの）、『居宅訪問型児童発達支援』の報酬を設定。以上、重症心身障害医療福祉を概観致しましたが、当センターでは冒頭に述べました「設立の理念」に立脚して、「重症心身障害児・者と共に」の姿勢と信念をもって貫いて参りたいと思います。

理念と展望

「第3回運営協議会から」

理事長 宮崎信義

巻頭言でも延べましたように、昨年の11月8日(金)に第3回運営協議会(年1回開催)が、「重症児者施設の今後の役割を考える」――さらなる在宅支援体制の構築に向けて――を主題として、発題・提言・協議が行われました。「愛の手を」198号では、創立理念と展望の欄で第3回運営協議会の内容をご説明いたします。

発題1. 「久山療育園の設立理念とキリスト教社会福祉」

1. 久山療育園の設立理念に学ぶ(検証と実践)

①「設立の目的」から…「重症心身障害児に愛の手を」↓在宅及び入所重症児者のニーズに聴く診療計画と実践。「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのはなく、むしろ地域の中心に位置付けられることを願う」。「久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点である」。

②「運営基本方針」から…「久山療育園はキリストの福音を土台として運営されなければならない」。↓重症児(者)と共に

ある「ミットレーベン・ネットワーク」(旧称…バプテストコロニー友の会)や保護者会及び諸教会・地域との協働によって園の正しい方向が維持されるように努める。

③「療育基本方針」から…「久山療育園は、病院であり学校であり家庭である。われわれは対象者を技術論的ではなく、全人的にとらえる。そのために、それぞれ最善の職協力を進めることによって、その専門的領域の働きを全うしなければならない」↓「久山療育園の療育」の再確認と医療マインドに基づく生命の尊厳を支える「QOL(生活の質・生命の質・人生の質)重視」。

2. 地域貢献への取り組み計画
①「在宅支援センター」の働きから福祉共同体の実現、地域医療連携へ。②「在宅支援センター」の働きの今後が理念にかない、利用者の声を聴く姿勢を根付かせる。

3. 障害者とキリスト教社会福祉

① 障害者のQOL―障害者

の生と…WHO(世界保健機関)を始めとして、「いのちの意味(健康の定義)」に「身体」・「心」に「霊(性)」(Spirituality)という要素が重視されています。QOLは「生活の質」と広く理解されていますが、障害者福祉の領域では、この意味をより深く「生活の質」・「生命の質」・「人生の質」ととらえられます。また障害児の存在を考える上で、「発達」という要素は不可欠であり、「人格発達」の質」という側面にも注目したい。QOLは、障がいを持つ人々を人格を持った存在として位置付けるだけではなく、人格成長を助ける役割を持っているからです。

存社会》における障害者の存在―健常者と障害者が共に生きる共同体の在り方を示す、《共存社会》の姿を示す鍵ともなる役割を与えられている。(熊野義宣…「障害者神学の確立をめざして」、NCC障害者と教会問題委員会編、新教出版社、1993年。)

③共生への促し…コリントの信徒への手紙13章13節「…信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である」。この聖句が示すのは、共生への促しでもありません。なによりもその根底には、我らの罪があるがままに受容し、共に苦しむことによって共生したもう神の現実があります。

②聖書から見た「障がい」の意味…「障がい」は、決して特殊な事柄ではなく、高齢社会の現在では普遍的な問題として私たちの目の前にあります。障がいは「弱さ」だが「弱み」ではないとも指摘されています。さらに障害者の特別な役割として、(1)「障害者」も「宝である」から「障害者」は「宝である」へ「神の像」として造られた神の栄光を表す器としての価値、(2)《競争社会》から《共存社会》への転回における障害者―能力主義や競争社会への道を邁進して行く危険を阻止する障害者の存在、(3)《共

以上、私が発題した内容を要約致しました。久山療育園が設立理念を守り、重症心身障害児・者と共にあることは、愛と平和と希望にいかされることでもあります。これから理事会と評議員会、そしてセンター内の管理会議でも、この久山療育園の「拠って立つ基盤」をアピールして参りたいと思います。

人のからだと病気

「酸素の不思議」

センター長／理事 岩 永 知 秋

■ノーベル賞と酸素

2019年のノーベル賞受賞者の発表があり、村上春樹さんは残念ながら今回も文学賞を逃しましたが、吉野彰博士がリチウム電池の発明でほかの2人の研究者とともに化学賞に輝きました。日本はやはりすごいですね。ただ、研究の成果がノーベル賞として反映されるのに20年くらいを要するといわれており、基礎科学研究にそぞろ研究費を国が減らしている現況は、日本の将来への不安を抱かせます。今年のノーベル生理学・医学賞は、細胞が周囲の酸素レベルを感じし、それに応答する仕組み(低酸素応答)を解明した、米国のウィリアム・ケーリン博士、英国のピーター・ラトクリフ博士、および米国のグレッグ・セメンザ博士の3人に贈られました。このメカニズムを制御する物質として、HIF1(hypoxia inducible factor、低酸素誘導因子)というタンパク分子を発見したのです。このタンパクは通常は作られては壊されていますが、低酸素の時は壊さ

れなくなります。低酸素の環境下では、このHIFの作用で赤血球を増やすエリスロポエチンを作る遺伝子が働いて、酸素を確保しようとし、赤血球が酸素を運ぶからです。最近ではこのタンパクが分解されるのを防ぎ、酸素を増やそうとする薬剤も登場しています。マラソンなどのスポーツ選手が高地トレーニングを行うのも、酸素の少ない環境下でのトレーニングにより、HIFの働きで赤血球を増やそうとしているのです。ヒトや生物のからだはこのように、とても優れた働きができるように作られていることが、このような新発見により改めて認識されました。私は昨年6月に北欧旅行をしましたが、その際スウェーデンのストックホルムにあるノーベル賞博物館を観覧する機会を得ました。人類が今に至るまでの進歩を遂げたのも、これらの多くの受賞研究者のおかげだと実感しました。

■地球と酸素

さて、人をはじめ地球上の生物は、この酸素という物質

とこれまでの長い地球の歴史において、共存してきました。地球ができたのは今から約46億年むかしとされます。宇宙ができたのはその3倍昔の138億年前、いわゆるビッグバンですね。地球で酸素が生まれたのはおよそ27億年前とされますが、太陽の光で海水を分解してエネルギーを得る細菌群が出現しました。そのときの化学反応で、水から酸素が生まれましたが、大気中に酸素が痕跡程度(現在の10万分の1)に増えたのは20億年前とされます。酸素を呼吸する生物が生まれたのもこのころです。酸素を使ってエネルギーを得る(好気性代謝)生物は6億年前に生まれ、それでも大気濃度は1%という薄い濃度でした。その後は地球の酸素は濃度が高くなったり低くなったりしながら、地球上に生物が住める濃度になりました。2億5,000万年前には再び酸素が欠乏し、地球史上最大の生物絶滅が起きますが、その後の低酸素の時代を経て、現在、空気中には約21%の酸素が含まれています。

■酸素はなぜ必要か

私たちは何のために呼吸しているのでしょうか。私たちが呼吸するのは、何となく酸素を体に取り込むためとは考

えていますね。では何のために酸素がからだに必要なのでしょうか? ヒトは1日700グラムの酸素を吸収し、その95%が細胞の中のミトコンドリアと呼ばれるところで、エネルギーを生み出すために使われます。ヒトが歩いたり、考えたり、仕事をしたりするうえでエネルギーは欠かせません。したがって、酸素は私たちが生きていくためのエネルギー源なのです。しかし一方で1-2%の少量の酸素は、活性酸素という生体にとって危険な物質に変わります。活性酸素は遺伝子を変異させたり、老化を進めたりする、生体にとって有害な物質です。幸いなことに、人や生物はこの有毒物質を処理する仕組みを備えています。

■からだと酸素

私たちが呼吸で吸い込んだ空気に21%含まれる酸素は、20回ほど2分岐を繰り返す気管支を通過して肺胞という小さな部屋まで到着します。ヒトの肺には左右両方で3億個の肺胞があり、その表面積を足し合わせると70平方メートル、テニスコートの半分の面積に及びます。この部屋に入ってきた酸素は肺胞のごくごく薄い壁の中に埋め込まれていて血管に、しみ込むように入っていきます。血管にはもち

ろん血液が流れており、その中の赤血球内にあるヘモグロビンというタンパクに結合し、酸素は全身に運ばれます。肺胞では同時に全身から運ばれてきた二酸化炭素が、血液から肺胞の中に移り、吐く息の中に混じって吐き出されます。体の中に酸素を取り入れ、二酸化炭素を外に出す、という仕組みは、植物と正反対です。植物は、空気中の二酸化炭素を吸収して、これからエネルギーを得る光合成という生きた方をしており、副産物として酸素を空気中に放出しています。動物と植物の共存共栄ですね。ところで、二酸化炭素は温室効果ガスとしても知られ、地球の温暖化と気候変動の主因と考えられています。ヒトが産業活動の中で用いる石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料から、多くの二酸化炭素が排出されるため、2015年パリ協定の中で各国の二酸化炭素排出量の削減目標が示されました。しかし目標達成は義務化されていませんので、どこかの大統領のように協定を反故にしてしまう動きもあります。

■超人と酸素

現在、空気中には酸素が21%含まれていますが、ヒトが耐えられる低酸素の限界はどれくらいなのでしょう?

1978年ラインホルト・メスナーは、高度8,848メートルのエベレストに無酸素で登頂することに成功しました。これはそれまでの学説、つまりその高さでは人間は酸素なしには知的・身体的活動は不可能、という理論を打破するものでした。大気中の圧力と酸素濃度は平地の3分の1、そこでのからだ(正確には肺胞レベルで)の酸素分圧は、その後のいろいろな研究により30トール(mHg)、二酸化炭素分圧は10トール(mHg)と推定されています。ちなみに普通の人の動脈の中の酸素分圧は85-100トール、二酸化炭素分圧は40トール前後ですので、30トールの酸素分圧では普通の人なら酸素を吸わないと意識を失う



「令和元年度西日本重症心身障害施設協議会報告」

理事長 宮崎 信義

はじめに

2019年(令和元年)の西日本重症心身障害施設協議会は、11月14・15日に米子市で開催され、67施設・登録220名が参加しました。テーマは「障がい児者支援地域ネットワークにおける施設の役割」と掲げられ、「地域」と「医療的ケア」に焦

点があてられています。それは、協議会の要旨を以下に説明致します。

「障害児支援施策の動向」(行政説明)

今年も行政説明は刀根暁氏(厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室)がなさ

いました。内容が多く、項目が中心になるので、私たちの課題を理解するために特に重症心身障害施策に特化してまとめました。

I. 障害者数の総数は

963.5万人(人口の約7.6%)で、障害者数(全体、在宅・通所)は増加傾向にあります。特に医療的ケア児、特に0-4歳児が増加していると言われます

II. 平成30年度障害福祉サービス等…障害者の重度化・高齢化への対応、医療的ケア児への支援や就労支援サービスの質の向上などの課題に対応する。改正障害者総合支援法等(平成28年5月成立)により創設された新サービスの報酬・基準が設定された。

1. 障害者の重度化・高齢化を踏まえた、地域移行・地域生活の支援については、①重度の障害者への支援を可能とするグループホームの新たな類型を創設、②一人暮らしの障害者の理解力、生活力等を補うための支援を行う新サービス、③地域生活支援拠点等の機能強化、④共生型サービスの基準・報酬の設定が挙げられています。

2. 医療的ケア児への対応等については、①人工呼吸器等の使用やたん吸引などの医療的ケアが必要な障害児が必要な支援

を受けられるよう看護職員の配置を評価する加算を創設すること、②障害児の通所サービスについて、利用者の状態や事業所のサービス提供時間に応じた評価を行うこと、③障害児の居宅を訪問して発達支援を行う新サービス(前回の法改正に伴うもの)、「居宅訪問型児童発達支援」の報酬を設定すること。

III. 障害児関連
1. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律及び児童福祉法の一部を改正する法律(概要)について(平成28年5月25日成立・同年6月3日公布)。
2. 障害児支援のニーズの多様化へのきめ細かな対応
①外出が著しく困難な障害児に対し、居宅を訪問して発達支援を提供するサービスを新設する。②保育所等訪問支援について…、乳児院・児童養護施設

の障害児を対象を拡大する。③医療的ケア・自治体において保健・医療・福祉等の連携促進に努めるものとする。④自治体において障害児福祉計画を策定するものとする。
3. サービスの質の確保・向上に向けた環境整備
①補装具費について…貸与の活用も可能とする。②都道府県がサービス事業所の事業内容

等の情報を公表する制度を設ける…。
4. 障害児入所施設の移行に関する今後の方針

【医療型障害児入所施設等】平成26年の「障害児の在り方に関する検討会」報告書において、「障害児入所施設と療養介護が一体的に実施できる事業所指定の特例措置を恒久的な制度にする必要がある」とされたことから、医療型障害児入所施設及び指定発達支援医療機関については、「入所者の年齢や状態に応じた適切な日中活動を提供していくことを前提に、医療型障害児入所施設等と療養介護の両方の指定を同時に受ける、現行のみなし規定を恒久化する。」と告示したところである。

基調講演…「鳥取県の医療的ケア児の現状とこれまでの取組み・課題」

調査期間…平成30年4月1日(平成31年3月31日)。

1. ワクチン接種(季節性)…①入所者(67回答)…全員接種31施設、95%接種33施設、90%接種3施設、90%未接種0施設。②職員(66回答)…全員接種5施設、95%接種20施設、90%接種20施設。ほか、インフルエンザ発症(67回

答)・・・①複数回発症⇒9施設
施設・病棟単位⇒24回答、単
発⇒16回答、発症なし⇒18回答。
②発症⇒流行期間⇒(1週以内)
19施設、(1～2週)23施設、(2
～3週)2施設、(3週以上)3
施設。③流行時期⇒11～12月12
施設、1～2月36施設、3～4
月8施設、5月以降1施設。
④型⇒A型のみ⇒40施設、B型
のみ⇒3施設、A型・B型⇒5
施設。⑤合併症⇒気管支炎・肺
炎3回答、呼吸不全1回答、喘
息0回答、転院3回答、合併症
なし20回答、死亡0回答。
3. 抗ウイルス剤の予防内服に
ついてのアンケート結果(50回
答)
①予防内服の対象者⇒同室者全
員10施設、同室者+濃厚接触者
44施設、病棟全員9施設・・・
②使用抗ウイルス剤⇒タミフル
45回答、リレンザ6回答、ラピ
アクタ19回答、イナビル5回答、
ゾフルーザ10回答 など。③予
防内服⇒不要0回答、慎重15回
答、積極的35回答、主治医によ
る7回答。
4. インフルエンザ以外の感染
症(64回答)
流行あり18施設、流行なし46施
設。

全体会(調査報告)報告II、「平
成29年度施設内骨折アンケ
ー
ト報告」

61/67回答(回答率91.0%)
調査期間(西日本)⇒平成29年度
(H29.10.1～H30.9.30)。
発168件／入所児者
5,749人

【参考】全国重症心身障害施設・
発生⇒404件(10,981
人中、3.68%)

まとめ・・・①年間骨折数168
件(2.92%)。②50歳代が47件
で最多、次は40歳代44件、60
歳以降30件・・・30歳代。③運動
発達レベルではI群(寝たきり
群)が77人(48%)と多い。④骨
折部位は足部(24.2%)が増加
次いで手部(20.3%)、大腿部
(17.6%)、下腿(15.4%)。

おわりに

以上、行政報告と把握してお
くべき「感染症アンケート報告」
「骨折アンケート報告」に絞って
ご説明いたしました。令和2年
度(2010年度)開催地は宮
崎市で、11月19～20日(木・金)
に愛泉会日南病院が担当され
開催されます。

43年のあしあと

定礎のころで

久山療育園重症児者医療療育センター2階に
ある法人書類庫には、書類だけではなく歴代の
園舎の「定礎」が保管されています。

今日のように電子媒体が発達していなかった
当時の記録として、アルバムや写真と共に久山
療育園の足跡を記す貴重な資料となっています。

園舎の建設は1969年に、一旦荒尾市小岱
山麓に土地が確保され、「バプテストコロニー
友の会」によって街頭募金等の運動が展開され
ていましたが、その後当時の久山町長である小
早川町長の理解により、1973年2月に、久
山町議会により重症児者施設建設の受け入れが
決議されました。1974年5月に社会福祉法
人発起人総会で「久山療育園」という名称が決ま
り、1975年9月13日に厚生省(現在の厚生
労働省)が法人設立を認可。その年の12月には
建設業者が決定され、1976年の2月4日に
起工式が実施されました。建設工事は同年7月
に完了し、8月27日に献堂式が行われ、9月1
日に施設が開設されましたが、写真の定礎が据
えられた「定礎式」は、それらに先だって6月7
日に執り行われました。

故川野直人初代理事長の「定礎の辞」には、『主
イエス・キリストの限らない愛とまなざしの
中で、このところにおいて、重症心身障害児(者)
の開かれた人生が始まる事を願って、バプテス
ト心身障害児(者)を守る会、久山療育園の定礎
をここにすえます。』と記されています。

(法人事務局 馬原哲治)



設立時の園舎と今も保管されている定礎



第50回 久山療育園公開講座

2019年11月5日に、当センターが開催した公開講座は、「災害時における地域連携～熊本地震を振り返り、災害時のそれぞれの役割を考える～」というテーマで、国立病院機構熊本再春医療センター 島津智之小児科医長に講演頂きました。

午前中の公演では、実際に被災した熊本再春医療センターでの状況を中心に話をいただきました。

2016年4月、震度7を2回記録した熊本地震。在宅で人工呼吸器や酸素を使用している子どもたち19名とその家族約40名が熊本再春医療センターに避難してきました。家中の物が倒れ、道路にも壊れた瓦や壁が散乱し、余震も続く中、救急車にも連絡がつかず、多くの方々は自家用車で時間をかけて、病院にたどり着くことが出来たそうです。中には、近所に住む訪問看護師や地域住民のサポートを得て避難してきた方々もいたそうです。

災害時に病院への避難や安否確認が比較的スムーズに行えた理由として、重い障がいの子供たちを多職種で支える地域ネットワークが存在しており、連絡を取り合いながら最善の対応を考えながら行動したことがあったからとの事でした。また、平

素から台風被害による停電に備え、病院に緊急入院をすることを繰り返していたことも、予期せぬ災害においても病院に避難することに結び付いたようです。

日ごろからの備えが災害時や緊急時に役に立つ、また、いつ起こりうるかわからない災害に対して、対応が出来るという事は強みで、そのためには地域連携を強化(普段から顔を見える関係を作る事)し、地域に出ていく(知ってもらふ事と同時に発信し続ける事)ことが大切との事も言われていました。

午後からは、「熊本地震を体験した施設の立場から」(くまもと江津湖療育医療センター 土屋さおり氏)、「在宅重症児者の家族の立場から」(西日本新聞社 三宅大介氏)「重症児(者)に関わる施設や事業所の現状」(久山療育園 吉本法生看護部長)よりそれぞれのテーマで講演とシンポジウムが行なわれました。

災害は多様な形でおこり、被害も様々です。シンポジウムの中では、各種災害に対応できるマニュアル作りが必須であるという事、職員一人一人が主体的に考え、動くことができるために日ごろから

訓練や意識付けが大切という事が語られました。

また、障がい者(施設入所・在宅)の避難生活を支えるための支援、生活を守るための柔軟な職員対応の実施、震災ストレスを考慮した支援の早期実施も求められます。そのためには、普段の避難訓練時から、施設・在宅・地域の3つが協力できるように取り組んでいくことで、本当の災害時に、完璧でなくとも柔軟かつスムーズに対応が出来ると思います。

実際に被害に遭わないと、人は動かないのかもしれませんが、今回、被災地域の方の話を聞くことで、皆が危機感を持って、災害対策を考えていくことにつながるようなシンポジウムとなりました。

九州では、大きな災害はあまり起こらない地域であるという認識がありましたが、ここ数年、熊本地震、九州北部豪雨が起り、また、台風の通り道でもあり、考えなおすべきであると思いました。「(台風など)予期できる災害で対応できないことを、予期できないときにやることは非常に難しい」

この言葉にあるように、日ごろからマネジメント力を養い、訓練に積極的に参加して、イメージトレーニングをしていく必要があります。

(療育課長 島津洋昭)





多くのご来園に 感謝致します。 久山療育園クリスマス - 2019 -

今年も暖冬傾向で12月を迎えましたが、例年より一際大きなポインセチアに見守られ、12月17日に入園児者クリスマス、19日に久山療育園クリスマス、20日に通所クリスマスが開催されました。それぞれに多くのご来場者に恵まれ、共に楽しく暖かい時間の中を過ごすことが出来ました事に感謝致します。来年も元気でおいでできますように。

(法人事務局 馬原哲治)



ボランティアの皆さん、関係者、職員らが祝会で楽しく交流しました。



祝会での久山バンドの演奏



聖歌隊と燭火礼拝の模様

「年末街頭募金に参加して」



今年もミットレーベン・ネットワーク(旧コロニー友の会)による年末街頭募金が行なわれました。久山療育園を支援する為に、創立前から行なわれている募金活動です。今年は、12月14・21・22・23・24・25・26日の内、久山療育園協力日は21・22の二日間でした。あいにく22日は雨の為中止となりましたが、21日には久山の保護者、職員、家族等32名の方々が参加されました。じっと立っていると手足がだんだんと冷たくなるのですが、そんな中で小さな子ども達が声を張り上げて「久山療育園です！ご協力をお願いします！す！」と精一杯に訴えている姿に励まされました。また通り過ぎた高校生が、恥ずかしそうに戻ってきて「少しですが」と献金を入れて下さったりすると、本当に心が温かくなります。毎年天神大丸前で行う事で、「いつもここでやってるね。」と久山療育園の存在を覚えてくださる方もおられます。

(広報出版委員会 中根史子)



めぐみ棟より

秋祭り

10月19日は秋祭り。利用者さんは今年も好きな仮装やお面を被っての参加です。

まずは、"インスタ映え"なブースでハイ！チーズ!!秋祭りのスタートです！



スノードーム作りやプロジェクションマッピングで癒されたあとは、2階での、ミニオインやくまモンのバルーンアート。可愛くて、つい私も欲しくなっちゃいました。(笑)人気で行列のできているゲームもあり、すべてに参加することはできなかったけれど、楽しい時間を過ごすことができました。そして昼食を食べて午後からは地域交流ホールでの久山樺太鼓の演奏です。始まりの音は利用者さんがびっくりするので慎重に。慣れてくると太鼓の迫力満点の音色に笑顔がたくさん見られました。大きく両手を動かして喜んでいる方演奏されている方々をしっかりと見て太鼓の音を楽しんでいる方。間近で聞く太鼓の音は利用者さんにどのように響いたのでしょうか。

なかなか体調が優れなかった利用者さん、この日はしっかりと目を開けて一緒に秋祭りに参加でき、とても良かったと思っています。また、来年も楽しみに元気で過ごしていきたいと思います。

(めぐみ棟介護福祉士 村上里奈)

外出サービス

11月12日、幸彦さん含め5名でマリノアシティ福岡へ行ってきました。

行きの車内では、終始笑顔が多く、外出サービスをとても楽しみにされている様でした。マリノアシティでは、洋服のお買いものをし、昼食はフードコートで大好物のラーメン等を美味しそうに召し上がり、もちろんデザートのアイスクリームはペロリと完食です。

食事の後は、朝食のパンにつけるジャムなどのお土産をゲット!!お腹も気持ちも満たされたのか、帰りの車内では穏やかな表情で、時折、思い出したように声をたてて笑っていた幸彦さんでした。とっても楽しいお出かけでしたよね。

また、行きましようね。素敵のひとつときをありがとうございました。

(めぐみ棟介護福祉士 久芳千鶴)



お母様より「人生の思い出」

当センターでは、日頃ご家族だけでは出かけることが難しい入所者の「あそこに行きたい」「あれしたい」というご希望に対して、外出をサポートする「外出サービス」を行っています。今回、外出サービスを初めて利用された、夏江さん・お母様より、こんなお手紙を頂きましたのでご紹介します。

「人生の思い出」

平成元年、今は亡きお父さん、夏江と3人で福岡よかトピアに行き、福岡タワーに40分待ちで上り、空間の風景を楽しみました。よかトピアでは、様々なテーマ館が並んでいて、どの館も長い行列でした。その中でも噂になっていた、「りんごのマークの甘いカレー館」に入り、当時は口から食べていたので、夏江は大好きだったカレーを幸せそうな表情で食べていた様子が忘れられません。

あれから30年が過ぎ、令和へ。タワーも新しくなり、折り返ししの思い出作りにと、母・夏江と園の支援を借りてスタッフと4名で秋晴れの日タワーへ上りました。夜空光の中で記念写真を撮ったり、30年という月日の流れを感じました。令和の時代での新たな第一歩となる思い出になっていく事でしょう。ありがとうございました。

(夏江・母)



ひかり棟より

HAPPY HALLOWEEN★

10月24日、ひかり棟ではハロウィン喫茶活動がありました！ハロウィンと言えば、やはり仮装ですよ？魔女の帽子やネコ耳、仮面などを身につけてをつけて、ひかり棟はモンスターたちでいっぱいになりました。もちろん、合言葉は「トリックオアトリート」！みなさん合言葉を唱えて好きなお菓子と飲み物を受け取ると、にっこりと嬉しそうな笑顔。因みに、今回の喫茶のメインはスイートポテトや、栗を使ったガトーショコラなど、秋の味覚満載。とっても美味しそうだったので利用者さんだけではなく、スタッフの皆さんも食欲もそそちやいました(笑)さすが食欲の秋！

秋と言えば食欲だけではなく、芸術の秋という言葉もありますよね？だったら食欲も芸術も一緒に楽しんでしまおう！ということで、なんと！映画上映もしちゃいました！仮装してお菓子を食べながら、みんなで映画も鑑賞する。とっても贅沢な時間！最高なハロウィンパーティーになりました！ハッピーハロウィン★

(ひかり棟保育士 佐藤有似子)



はじめて入所者クリスマス会に参加して

12月に入り、施設の廊下や病棟の中はツリーやクリスマス仕様の飾りでキラキラ☆施設全体がクリスマス色に染まっています。園に来るたびにもうすぐクリスマスなんだと感じていました。

12月17日に入所者クリスマス会が行われました。朝食時、ひかり棟では、クリスマスソングが流れており、いつもと違う雰囲気を利用者の皆さんもドキドキ・ワクワクと、クリスマス会を楽しみに待っている様子です。

交流ホールまで移動し、いよいよ待ちに待ったクリスマス会のスタートです。クリスマス会で私はキャンドル係になったので、キャンドル係の利用者さんと一緒に点火をさせて頂きました。利用者さんたちはキャンドルの灯りをうつとりとした表情でみられていました。式典中、理事長先生の話を聞く姿や賛美歌を歌う姿は真剣そのものでした。第2部のクリスマスコンサートでは、アルパ演奏者の小林知加さんが来て下さいました。とても素敵な演奏で、利用者さん・保護者の方々・スタッフの皆さん笑顔で楽しく聞かれていました。

お昼は、豪華なメニューとケーキが準備されていました。準備されたケーキを保護者の方や、スタッフと一緒に選んでいる利用者さん達は、目をキラキラと輝かせ、すごうれしそうな顔をされていました。私はケーキ係も担当したので、その姿を間近で見る事ができ、私まで嬉しい気持ちになりました。また、保護者の方と一緒に食事をし、利用者・保護

者の皆さんも笑顔があふれる食事の時間になったと思います。

今回ははじめて入所者クリスマス会に参加し、利用者さん達のたくさんの方々の表情を見る事ができました。そして、皆さんの笑顔がいっぱい見られたことがなにより嬉しかったです。素敵なクリスマス会に参加させて頂きありがとうございました。

(ひかり棟介護福祉士 大塚菜奈)



通所で頑張っています

買い物活動を行いました♪

お菓子売り場で♪

何を
買ったのかな



10月～11月にかけて
久山療育園のそばにある
ローソンさんにお買い物へ出掛けました。
皆さん、何がいいかな～？と
様々な売り場をぐるぐる…。
スイーツやお菓子、ジュースなどを買い、
素敵な笑顔を見る事が出来ました♪



美味しそうな
デザートが☆

☆2019年 通所クリスマス会☆



今年はゲストにゴスペルの方々がきてくれました♪
バラードからノリノリな曲までたくさん歌って下さり
会場は大盛り上がり！！



手作りプレゼントの
中身はリース♪
サンタさんからもらいました



毎年恒例のス
タッフによる
出し物
ラグビーの
ハカを踊り
クリスマス
ソングを
演奏しました♪



みんなで楽しくお食事タイム

重症者ホームひさやまより

「福岡市科学館へ行きました」

11月の上旬秋本番、久山療育園通所が企画した重症者ホームの皆さん対象の、園外活動に参加しました。六本松にある福岡市科学館は、プラネタリウムがあり、とっても楽しめる魅力のある素敵な施設でした。

科学を学び体験し感性を豊かにする、いわば人を育てるといふコンセプトのもとで造られた施設ですから、参加した皆さんはそれぞれに新しい経験をされて戻ってこられました。

新型のプラネタリウムは本当にすごかったです。アニメのちびまる子ちゃんのカラクターも出てきて参加した皆さんは、にこにこしておりました。プラネタリウムの他にも宇宙に関する展示物もたくさんあり、皆さん興味津々でした。

重症者ホームの皆さんは、日中活動の場として久山療育園通所を選ばれ通っている方が多いわけですが、音楽あり、歌あり、ゲームあり、園外活動あり、クリスマス等の季節の行事もあり、とっても素敵な体験を日々続けておられます。またそれを支える職員は、常に安全の配慮と生活の質の向上を高める努力をし

ております。今回、車に乗って保護者家族の皆様と楽しいひとときを過ごした園外活動は、参加した皆様すべての方々に楽しい思い出として心に刻まれていくのだと、つくづく感じた次第です。



「讃美歌大好きです」

久山療育園では、毎週火曜日の夕方5時10分より、2階の法人会議室で「火曜集会」を開いています。集会では讃美歌を歌い聖書を学んでいるのですが、もう何年も集会に欠かさず通っておられる女性の方がいらつしやいます。

久山療育園の重症者ホームに入居されている因道子さんです。因さんは歌うことが好きで、特に讃美歌が大好きです。にこやかにそして全霊をもって力強く歌う姿には、参加者一同感銘を受けました。集会に集う職員も、因さんから発せられるパワーに元気をいただいております。集会の参加者は、いつも10名に満たないほどの小さなものですが、因さんがいらつしやる事でとて

も華やかになるので不思議です。

参加している職員は日常の業務を終えて集っており、確かに疲れはありますが聖書の勉強を終えるころには心地良い疲れに変わります。参加している職員は皆、因さんと共に集会に参加できる恵みに感謝しています。そして、久山療育園に連なる皆さんに、神様の守りと豊かな祝福があります様にと切に願っています。

最後に、勤務終了後にもかかわらずホームから集会所までの送り迎えの移動を手伝って下さるスタッフに心より感謝しながら筆を置きたいと思います。(重症者ホーム生活支援員 島本和明 二記事とも)





藤田 英彦

「こつこつというわけで、私たちは、憐れみを受けてこの務めについているのですから、落胆しません。かえって、恥じて隠したりせず、謀りによって歩まず、神の言葉を曲げず、心理を明らかにし...」(Ⅱコリント4:1)

2019年12月4日、「百の診療所より一本の灌漑用水を」「中近東の平和、復興は軍事ではなく農業を」とアフガンで活躍中のNGO「ペシャワール会」現地代表の中村哲医師が、現地の心無い暴徒の凶弾に倒れたというニュースが世界を駆け巡り、多くの人々を驚かせ悲しませた。干ばつにあえぐアフガンの大地に用水路を建設し16,000ヘクタール以上を潤し豊かな農地に変えた話などをマスコミは競って報じたが、中村哲さんはバプテストである。西南中学時代に藤井健児牧師の牧する香住ヶ丘教会に通い聖書を学び、バプテストを受けた。その聖書の教えが彼の生涯を決定させることになったのだらう。当法人の宮崎理事長は教会、九州大学時代の親友と聞く。中村哲さんは九州大学医学部を卒業した時に一旦、日本基督教医科連盟(JOCS)に参加してパキスタンの

診療所に赴くが、期する事があったのかJOCSを辞し、九大医学部時代からYMCAでも一緒に活躍した親友佐藤雄二医師とペシャワール会を創設する準備の為、日本に帰国した。(佐藤医師は高校生時代、東八幡教会で原田牧師からバプテストを受けている)

佐藤医師は日本に留まり、中村医師を支える働きをしたが、若くして天に召され、現在の奥田知志牧師が葬儀の説教を務めた。その奥田牧師は、ホームレス支援「抱擁」理事長として「活動違えど理念は同じ」と12月11日「西日本新聞」朝刊トップに寄稿した。翌12日の朝刊には、「前日の告別式で歌った藤井牧師の新生讃美歌389番『昔主イエスの新き給い』しいとも小さき命の種」(マルコ4:30)に会衆の多くが共に和して歌った」とあった。若き中村哲さんがパキスタンから一時帰国した時、西南中学校時代から藤井牧師と親しかった私は、東京恵泉教会に中村哲さんを招き、教会で話をしてもらい、その夜遅く迄話した。その時の彼の「僕は本当に山が好きなんです。それと昆虫も」と、はにかみながら語った若き日の彼の言葉が今も私の耳に残っている。

その数日前、11月24日、ローマカトリック教会フランシスコ教皇が1981年のヨハネ・パウロ二世以来28年ぶりに被爆地長崎を訪れ、ミサを行うと共に同じ爆心地広島でと

2回続けて、「核戦争の許容で威嚇する事に頼りながら平和を提案できるのか」と鋭く問いかけ、核保有だけでなく核抑止も明確に否定し、米国の傘に入る日本を暗に批判した。翌日の毎日新聞朝刊3面に「日本は唯一の被爆国として核保有と核非保有国の『橋渡し役』を自認している。ただ、弾道ミサイルの発射を繰り返す北朝鮮を念頭に、日本を取り巻く現在の安全保障の環境から『核抑止力』は必要だ」との姿勢を崩していない」と解説されている。翌日の東京球場で7万人にミサを捧げる景色や皇居で姿が見えなくなるまで手を振る天皇のにこやかな顔と、官邸で慥然とした顔で握手する安倍首相のおもてなしの顔が対照的だった。フランシスコ教皇の核廃絶に向けての発言、中村哲さんの平和を希求し、皆が生きるために砂漠を拓く作業も、近年はびこるポピュリズムに対して、既に望むことを断念せざるを得ないと思われ勝ちな困難な状況にもめげずに未来に向かって取り組み姿に感銘を覚える。

それはイエスキリストの十字架と復活を信じ従う信仰によるものと言える。

新入職員の紹介

2019年度に入ってから、新しい仲間をお迎えしましたのでご紹介します。

- ①名前・職名・部門配置
- ②久山療育園で働くことについての抱負
- ③長所・短所
- ④利用者の方や家族とどのように関わりたいですか？



- ①平川美香(看護師/めぐみ棟)
- ②利用者さんのニーズに合った援助ができるよう頑張ります。
- ③長所…明るく前向き
- ④利用者さんやご家族の思いに寄り添い、安心して頂ける看護やケアができるように関わってまいります。



- ①内倉明日香(看護師/ひかり棟)
- ②利用者さん、ご家族に寄り添える看護
- ③長所…コミュニケーション力
- ④利用者さんが生活の場として安全に快適に暮らして頂けるように援助し、家族のニーズにできるだけ応えて行けるように。



- ①白石美保(看護師/通所)
- ②チームワークを大切に、自分のやるべきことを丁寧に行います。
- ③長所…温厚
- ④いつも笑顔で心を込めて接し、そっと寄り添えるような存在になりたいです。

各部の取り組みの紹介

「災害は忘れた頃にやってくる」(全体避難訓練報告)

寺田寅彦(てらだ とらひこ、1879(1935年)という物理学者をご存知でしょうか。彼は熊本県の第五高等学校(現・熊本大学)で夏目漱石に英語を習い、漱石が主宰する俳句結社に参加したこと、漱石の「一番弟子」と呼ばれることもあるそうです。寺田は物理学者として数々の業績をあげましたが、防災学者として地震・台風・火山などの被災地を調査し、そこから得た教訓を一般大衆向けの随筆に著したことも知られています。

寺田の言葉で一番周知されているのが、冒頭で紹介した「災害は忘れた頃にやってくる」という警句です。今からおよそ百年前に彼が残した警句から、今もなおも通ずる防災や減災の重要性を肝に銘じて、日々災害対策に取り組んで参りたいと思います。

さて、当センターでは、児童福祉法第六条の規程に基づき毎月避難訓練を実施しており、2019年11月21日(木)に行った全体避難訓練(昼間想定)について報告させていただきます。

主な訓練目的は、火災時は災害マニュアル通りにはならないことを想定した対応(初期消火、情報伝達、避難誘導)ができること、関係者全員が迅速かつ無事に避難できること、の二点です。

午前中は、事務所内で消防設備点検業者による火災受信盤の説明があり質疑応答の時間を設けた後、訓練用の水消火

器や散水栓を使用した消火訓練を行いました。消火器の放射時間が約14秒と短いこと、散水栓を実際に使用して放水圧力をじかに実感すること、ができました。

午後2時10分より避難訓練がスタートしました。出火元は本館二階の家族宿泊室(たちばな)を想定。煙感知器を作動させて、強制的に非常ベルを鳴らしました。「ただ今、二階の火災感知器が作動しました。」と大きな音声アナウンスが流れて、否が応でも心拍数が上がりました。リーダーは消火班へ初期消火の指示を出し、一方で消火班メンバーは消火器を持参して出火現場へ急行しました。同時に、通報班メンバーへは、消防署からの緊急電話の応答と全館への一斉放送を指示。また、避難救出班は、来園者(ボランティアさん、業者等)の避難誘導を行いました。

その後、各部署から防災対策本部長代行へ避難状況の報告がなされました。最後は、次年度に向けた反省会を行いました。今回の避難訓練においては、参加者全員がそれぞれ役割を持ち、真剣に取り組んでいました。今後もより一層の防災意識の向上に努めて参りたいと思います。

(事務設備管理 古城佳彦)



めぐみ棟：ベッドを避難させたベランダの風景



通所利用者やボランティアを避難させた玄関の風景

久山療育園に入職して

通所看護師 牧島なつみ

久山療育園に入職して4ヶ月が経ちました。知らない土地での生活、重症心身障害という慣れない分野に最初は不安もありましたが、今ではとても楽しくお仕事をさせて頂いています。特に、利用者さんの笑顔や言葉かけ、タッチングに対する反応は私のモチベーションになっています。これからも利用者さんと御家族が安心して通所を利用できるよう、看護師としての技術と感性を磨いて私なりに頑張りたいと思います。

通所看護師 白石美保

療育センター(小児)の経験を経て入職しました。仕事の流れは、前職と近かったのですが少し違うのは通所では看護師も日々の活動に携わることです。活動の中に「タッチング」があります。このタッチングは利用者さんとコミュニケーションを図ると同時に、体調の変化に気付く事に繋がります。体温、呼吸状態、緊張など小さな変化を利用者が教えてくれます。

私はこの小さな変化にすぐ気付く、利用者さんが安楽に、ご家族の方が安心できるように努めて参ります。



- ① 牧島なつみ(看護師/通所)
- ② 利用者さんご家族が安心・安全に利用できるよう、技術と感性を磨いていきたいです。
- ③ 長所…性格が男前と言われます。短所…女子力が不足しています。
- ④ 在宅生活を支える一人として、安心感を持つてもらえるよう接していきたいです。
- ① 石井佳代(歯科衛生士)
- ② 利用者さんに安心してもらえる様、笑顔でいたいです。
- ③ 長所…手先を動かすこと、細かい作業が好きです。
- ④ 短所…時々ぼーっとしている事があります。
- ④ なんでも話せるような信頼関係を少しずつ作れたらいいな、と思っています。

ミットレーベン・ネットワークからのお知らせ

重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」

創立50周年記念コンサートと講演会へのご案内

会長 伊原幹治

皆様には、年末・クリスマス街頭募金にはご協力をいただき有り難うございました。福岡市中央区天神にある西日本新聞社・博多大丸前に大勢のボランティアが立ち、声をあげて、久山療育園への支援を呼びかけました。風邪を引かなかったでしょうか。募金については、改めてご報告をさせていただきます。本当に有り難うございました。

さて、以前から申し上げていきますように、「バプテストコロニー友の会」は、今年で結成50周年を迎え、今年度より重症児者と共に生きる「ミットレーベン・ネットワーク」と、名称を変更しました。それは、福祉の在り方が50年前とは大きく変化したことに伴うものでした。今や、「施設」から「地域」に、「隔離」から「共生」へと流れは明確になってきており、これからはさらに障害を持つ人たちが地域の人たちと一緒に生活をするという形が進んでいきます。それにふさわしい受け入れ態勢を、地域でいかに構築していくかということが、これからの課題となります。久山療育園でも、従来からの措置入所を中心にした形態に加えて、在宅支援強化の方向性が出されました。それが、「在宅支援センター」であり、通所73人、外来、相談支援を行い、またグループホーム「重症者ホームひさやま」(定員10人)の設置です。それらは、「久山療育園 重症児者医療療育センター」という名前の変更によって表れています。久山療育園を中心に、いかに在宅の人たちと有機的な繋がりを保持しながら、在宅支援を拡充させる

ことできるかということが、これからの課題です。そういう状況の中で、私たちは50周年を迎え名称を変更しました。そこで、「ネットワーク」となった本年度最大のイベントが、「生きるに値しない命はない」と題した、創立50周年記念コンサートと講演会です。2020年2月1日(土) 場所は、西南学院大学チャペル(早良区西新)、入場料は1000円(中学生以上)です。チラシなどで既にご存じかとは思いますが、多くの皆様方のご参加をお待ちしています。

コンサートは、ジョイ倶楽部ミュージックアンサンブルによるフル規格での演奏になります。既に、多くの場所でも年間50回以上の演奏会を持ち、1993年に福岡市に誕生した歴史ある障害者バンドです。

講演は、東八幡バプテスト教会の奥田知志牧師で、北九州でホームレス支援活動を通じてきたNPO法人「抱樸」の理事長です。新しくなった「ネットワーク」の働きへのご参加とご協力をお願い致します。



外来療育

宇

そら

宙



あぼろ組 「みんなで芋ほり！
おおきなお芋出てきたよ！」



どりーむ組 「土の中にお芋がいっぱい！
他にも何かいるのかな？」



バスハイク 「近くのかかしを
見に行ったよ！僕よりおおきいなあ」



音楽活動 「楽器がいっぱい！
どんな音になるのかな？」

ご協力ありがとうございました

(2019年9月1日～11月30日) 敬称略

【法人】

一般献金

青森バプテスト教会女性会、青山好子、秋永侑美、阿部直子、安部田鈴香、飯田節子、稲石三代子、井上吉彦、いのちの冠福岡教会、今中富美子、因敷、梅津清子・大谷順子、大高玄子、岡久凱、岡本好枝・修一、甲斐悦江、加來徳子、西南学院高等学校母の会、金子純雄、(株)SYSKEN、(株)アンチータ、(株)博防、鎌倉ツヤ子、上久原区長柴尾 賢一、木下鮮魚店木下孝之、下松京子、窪田次男、香蘭女子短期大学、古賀和男、古賀成、澤田久夫、品川バプテスト教会、志満秀武・てい子、社会福祉法人キリスト者奉仕会、社会福祉法人福岡あけぼの会、ステップアップ、庄林洋子、スーパード信、西南学院バプテスト教会姉妹会、西南女学院同窓会福岡支部、田上洋子、田川賢二、中原民子、手作品売上げ、土地家屋調査士法人エビス、富野バプテスト教会、中尾清寿、中島乃婦子、中久原区長安倍政明、中村晴光、名雪賢一、奈良崎洋子、西加代子、日本基督教団福岡中部教会、日本聖公会九州教区中村正、日本バプテスト大阪教会、野口芳子、野田結美、野田由里子・和子、延岡キリスト教会、久山療育園来久の会、姫路城西キリスト教会、平川博・成、福岡聖書キリスト教会、豊前キリスト教会、榎谷悦子、松尾国利、松岡順之介、松崎美恵子、牟田逸雄、山口正夫、山崎工、山田和子、(有)三電、嘉久明子、吉見末男、吉村敏彦
(以上3,927,352円)

【重症者ホーム】

一般献金

自動販売機売上献金、安部聖子、井手伸昌、井上清美、梅木光男、開園祭来園者、かたえキリスト教会手塚夫妻、林香代美、坂東資朗、久山療育園献金箱、船津九泰、ボランティアコーヒ、間部和子
(以上1,160,328円)

【施設】

一般献金

池田文章、池田和、瓜生悦子、大高玄子、大原あい子、大原信幸、荻本明美、荻本光雄、小山和子、金丸尚美、草場正子、久保今日子、古賀譲二、堺太郎、重症者ホームひさやま家族会、新藤佐知子、西南女学院大学短期大学部付属シオン幼稚園保護者会、田中三千男・由美、塚原千鶴子、つくしんぼうの会、伴敦子、花原

章二、梁瀬歌子、東倉忠勝、久山療育園保護者会、深見達弥、福岡県重症心身障害児(者)を守る会、福田靖、又野洋子、松尾貴光、松尾勇一、宮崎信義、村津俊博、村山均、森永清治・亜希、矢津里恵子、山口吉昭、横溝玲子、吉村尚子
(以上459,000円)

献品

粕屋理容組合(タオル)、鎌倉ツヤ子(お米)、川崎バプテスト教会女性会(エプロン他)、草場貴子(はがき)、栗ヶ沢バプテスト教会女性会(石けん他)、國分美知子(半タオル他)、佐藤初美(オムツ他)、鮫バプテスト教会女性会(タオル)、重症者ホームひさやま家族会(イルミネーション)、如水庵(水ようかん)、西南学院高等学校母の会(タオル他)、西南女学院大学短期大学部付属シオン幼稚園保護者会(タオル他)、富里キリスト教会女性会(エプロン)、永湖光恵(切手)、野田正紀(血圧計)、林香代美(お米)、久永弘子(靴下他)、平塚バプテスト教会女性会(エプロン)、安井洋子(エプロン)、山本俊次(ETC車載器、横溝俊之(タオル)、嘉久明子(果物)、渡辺宏周(吸引機他)
(以上21,600円)

献金申込先

- 《郵送》
社会福祉法人 バプテスト心身障害児(者)を守る会
〒811-2501 福岡県糟屋郡久山町大字久原 1869
久山療育園重症児者医療療育センター内
☎ (092) 976-2281 (代)
- 《郵便振込》郵便振替 【01720-8-24404】
名義：バプテスト心身障害児(者)を守る会
- 《銀行振込》西日本シティ銀行久山支店 普 71888
名義：バプテスト心身障害児(者)を守る会
理事長 宮崎信義
- 《ホームページ》
当センターホームページから、クレジットカードによる寄付が可能となっています。「寄付金のお願い」より開いて下さい。また、郵便局振込用紙もパソコン画面よりダウンロードすることができますので御利用下さい。

個人、会社共に免税の対象になります。
メール：hisayama@hisayama-smid.jp

職員の異動

(2019/10/1～12/31)
【採用】
▽樋口克己(生活支援員) 12/23付
▽真崎陽菜(看護師) 10/31付
【退職】
▽安河内裕子(看護師) 11/30付

メモ帳

【10月】▽2日 重症心身障害児(者)医療的研修(8名)
▽4日 誕生会▽6日 まつり久山参加▽8日 香蘭女子短期大学保育士見学(39名)▽10日 災害対策訓練▽11日 第4回理事会▽13日 東久原地区運動会参加▽15日 余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)▽16日 病院立入検査(7名)▽17日 舞鶴幼稚園母の会ボランティア(30名)
▽19日 秋祭り(入所・ホーム)▽23日 精華女子短期大学保育士見学(35名)・福岡特別支援学校修学旅行▽24日 西南高校母の会ボランティア(11名)▽キリスト教学校教育同盟加盟校教員見学(西南学院中学校・高等学校(10名))

【11月】

▽5日 第50回公開講座▽8日 第2回評議委員会
▽9日 ボランティア講習会(13名)、キリスト者奉仕法人責任者職員・施設見学(20名)▽12日 シオン山幼稚園母の会(13名)▽13日 聖公会司祭見学(10名)▽16日 こひつじの園ランチカフェ参加▽19日 余暇活動(スマイリングホスピタルジャパン)▽20日、27日 九州産業大学こども教育学科見学(43名)▽24日 余暇活動(手話ダンス)▽29日 誕生会

【12月】▽6日 誕生会▽9日 西南高校母の会ボランティア(14名)▽17日 入所クリスマス▽19日 園クリスマス
▽20日 通所クリスマス▽21日 こひつじの園ランチカフェ参加

ボランティアだより

ボランティア講習会

11月9日、今年度二回目の講習会を行いました。現役ボランティアさんの話では、山田かおりさんにお話して頂き、たくさんさんの質問にも丁寧に答えて頂きました。

参加者からは、センター内見学・介護体験・利用者とのボッチャ大会など、体験を通して「楽しかった」「また来たい」などのご意見を頂き、今後に繋がる良い機会となりました。

今回の一番のトピックスは、これまでで最年少(5歳)の参加者が来てくれたことでした。お母さんと共に来てくれたK君。退屈しないかな?と心配していましたが、隣の部屋の大形遊具で遊んだりして休憩しながら、最後まで頑張りました。始めは緊張してお母さんの影に隠れながらの見学でしたが、最後のボッチャ大会では、利用者の笑顔にK君も笑顔を見せてくれて、私たちスタッフもホッと一安心。お母さんからも『戸惑っていた息子が徐々に心を開き、最後は笑顔を見せてくれたことに感動しました』との言葉を頂きました。

今後も定期的に講習会を開催し、久山のボランティア活動を知って

頂きたいと思います。

参加して頂いたみなさんありがとうございます。

(ボランティア委員会 陣内晶子)



歩行器

12月は17日の入園者クリスマスマス、19日の園のクリスマスマス会、20日の通所クリスマスと入園者、通園者を中心とするクリスマスがあり、イエス様のご降誕をお祝いし、「ご家族の方々も一緒に讃美し、ページェントやコンサートでは楽しい時間を過ごすことができました。神様はその一人子、イエス様をこの世にお遣わしになり、わたしたち一人ひとりの生命をお救いになりました。もともと小さい無力な存在の中に神を見ることができ、あらためてクリスマス喜びを深くあじわうことが出来ました。

昨年11月に第40回西日本重症心身障害施設協議会に出席しました。日本重症心身障害福祉協会の定款について第3条「その家庭の福祉増進に寄与すること」を目的とするを「その家族とその地域の福祉の増進に寄与すること並びに重症心身障害療育の理念及び成果の普及を目的とする」への改正案の説明がありました。それは、施設入所中心の支援から、家庭・地域を基盤とした地域包括支援への移行。家庭のみならず、地域支援に関わることなしには重症心身障害児者の尊厳と重症心身障害児者支援を語れないと言ったものでした。

当園においても設立理念に「重症児が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置付けられ

ることを願う」と謳っており、この願いから「在宅支援センター」が2015年に開設され、豊かな生活空間(グループホーム)「重症者ホームひさやま」が設置されました。「久山療育園は単なる収容施設ではなく、新しい福祉社会(福祉共同体)づくりの拠点である」と示された理念に導かれ、広く地域福祉に働く「在宅支援棟」も機能しています。この「在宅支援センター」の働きから、福祉共同体の実現、地域医療連携へと歩みを進めています。

今日では在宅重症者の医療的ケア、人口呼吸器使用者が増加し、当園通所者の医療度も高まっています。また、その両親も高齢化し、在宅率は低下する傾向にあります。そのため入所施設やグループホームが受け皿として期待されています。

今後、重症児者ホーム「ひさやま」は短期入所室の稼働率を高めつつ、日中サービス支援型グループホームへの移行に向けて準備を進めていきます。

(H・N)